浦和大里小学校だより

１１月号　令和７年１０月３１日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成

１年生のお仕事から

校　長　　中 野　緑

窓を開けると濃密なキンモクセイの香りに包まれます。うつむいて登校してきた子どもたちに声をかけると、木を見上げてちょっと驚いたような表情をみせてくれます。「角を曲がったところからにおいがしたよ。」と教えてくれる子どももいます。すっかり秋ですね。先日の運動会ではたくさんの応援、あたたかい励ましをありがとうございました。

職員室の近くに、「お手紙ボックス」があります。各クラスで配布する手紙を入れておく棚で、当番の子どもたちが毎日手紙を取りに来ることになっています。

ある日、「わたしがもつ！」「昨日ももったじゃない。ずるい。」１年生が何やら言い合いをしていました。そのうち折り合いがついたのでしょう、「じゃあ、順番こにする？」「そこの階段で交代ね。」二つの手紙の束をバスケットに入れ、にこにこと運んでいきました。

「働きたい！」という思いを全身にまとった１年生の様子を見ながら、私は業界トップクラスのチョーク製造会社「日本理化学工業」を思い出しました。知的障がいがある方を多く雇用していることでも知られ、会長の大山さんのインタビュー記事によると、当時会社の近くにあった養護学校の先生から「生徒の就職をお願いしたい。」と頼まれたのがきっかけだったそうです。お断りをしたものの、先生はあきらめず何度も訪ねて来られ「もう就職させてくれとは言いませんから、働く体験だけでもさせてくれませんか。」「もし就職しなければ、この子たちは卒業後、施設に入ることになります。そうなれば、一生“働く”ということを知らずに人生を終えることになるのです。」と訴えたそうです。２週間の就業体験に来た２人の生徒の仕事に打ち込む姿に、社員たちが「雇ってあげてください。」と働きかけ、２人の雇用が決まったのだそうです。

その後、大山さんは、知人の法事で隣に座った住職に「施設に入って面倒を見てもらえば、今よりずっと楽に暮らせるのに、なぜ彼女たちは毎日工場へ働きに来るのでしょうか。」と尋ねたそうです。すると住職はこう答えました。「人間の究極の幸せは、人に愛されること、褒められること、役に立つこと、必要とされることの４つです。施設で大切に保護されるより、働いて役に立つことの方が人間を幸せにするのです。」。

愛されて、褒められて、役に立ち、人に必要とされること。この幸せは子どもたちの生活でも同じことが言えます。あのお手紙を持ち帰った子どもたちは、きっと教室で「ありがとう、助かるよ。」と、声をかけてもらったことでしょう。運動会のがんばりも、学校で、おうちでたくさんほめてもらったことでしょう。大人や友達が発する言葉を心の栄養にして、子どもは力強く前に進んでいくものだと、私は思います。